

## 茨城大学同窓会連合会会報

2021.3  
第15号

茨城大学同窓会連合会顧問・彫刻家 能島征二氏作「フローラー花の女神」と茨城大学図書館

## 同窓会連合会会長に就任して

茨城大学同窓会連合会  
会長 久保田 益充

令和2年11月25日の茨城大学同窓会連合会総会において会長に指名されました理学部同窓会会長の久保田益充でございます。はなはだ微力ではありますが皆様のご支援をいただきまして2年の任期を同窓会連合会の発展のため、茨城大学の発展のためにお役に立つことができたと願っております。

茨城大学は令和2年4月に就任した太田寛行新学長のもと、「学生が活気にあふれ、教職員がやる気に満ち、地域が元気になる、多様性を生かした大学の実現」を目指して、その活動を活発化されております。そんな背景の下で同窓会連合会が一丸となって大学を支援していくことが重要であると考えます。

同窓会連合会は同窓生同士の横のつながり、縦のつながりを重視した活動、同窓生が同窓会の存在を実感できる活動、社会の発展に貢献できる活動は勿論のこと、特に、昨年度からは大学に基金・同窓会課が設けられ、同窓会会費の徴収も飛躍的に増加したことをうけて、大学、特に在学生を支援するための活動や学修環境の整備に向けた活動を一段と強化することが必要であると考えます。

それにいたしましても、令和2年度に入ってから新型コロナウイルスの感染がますます広がりを見せ、同窓会活動も思うようにできない状況が続いています。ワクチンが開発され感染の拡大が早期に解決され、同窓会活動が積極的に展開できるよう祈っております。会員の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

## 新常態の時代の大学教育に向けて

茨城大学  
学長 太田 寛行

昨年4月の学長就任前からCOVID-19の世界的な感染拡大という事態に直面し、日々その対策に追われながら、「ウィズコロナ」「アフターコロナ」を見据えた新しい大学のあり方を考える1年でした。振り返ると、教育面での大きな成果は、新しい遠隔授業という状況においても、学生たちは前向きに適応し、学業に励んでくれたことです。また、卒業生の皆様からは、多くのご支援をいただき、学生の学修の継続が支えられたことで、卒業生の有り難さを再確認しました。学生たちには、部活・サークルなどの活動も大きく制限せざるを得ませんでした。その中においても感染症対策をしっかりと講じながら工夫して練習に取り組み、ラグビー部が全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会関東二区リーグで初優勝、陸上競技部が3年ぶりに箱根駅伝予選会に出場するなど、どんな時も動じない強さを見ました。こうした学生たちの実直さと弛まぬ努力を学長として誇りに思っています。今年もCOVID-19との闘いは続きますが、新しく得られた経験や知見を活かしながら、学生の成長にとって何が大切かという視点に立って、より高い教育の成果とともに新常態の時代の大学教育をめざしていきます。社会に対しては、国連の持続可能な開発目標であるSDGsの達成に貢献する茨城大学の姿が見えるように、学生、教職員が協力していきます。今後とも、同窓生の皆さまのご支援をお願いするとともに、同窓会連合会の発展を祈念しております。

## 同窓会交流コーナー

## 文理・人文学部同窓会の近況報告

文理・人文学部同窓会副会長兼幹事長 鈴木 章史



第 35 回理事会での校歌斉唱

令和 2 年度は、第 14 回総会を 7 月に開催する予定でしたが、コロナ禍で延期しました。例年でしたら講演会や懇親会での近況報告等で盛り上がる予定でしたが残念ながら開催できませんでした。また、2 年毎に人文社会科学部と同学部後援会との共催で開催しておりました「学生懸賞論文募集事業」の年でもありました。このようなコロナ禍の中で、学生も通常の授業は受けられず、どうしたものかと心配しておりましたが、学部から「このような状況であるからこそ、実施した方が良いのではないか」とのアドバイスを受け、敢えて、実施することになり、12 月からの募集に変更しましたが、18 編の貴重な論文が寄せられました。

2 月中旬に外部選考委員を含めた審査が終わり、優秀賞 4 名、佳作 2 名の他新たに奨励賞を設け、3 名が選ばれました。2 月 24 日に授賞式を行い、賞状と賞金がそれぞれ贈られました。

今年度の入会率は、基金・同窓会課をはじめ、大学側の協力のお陰を持ちまして、学部入学生の約 90% に当たる 351 名の加入者を迎えることができました。今後、学生のために何ができるかを考え、実行していかなければならないと、役員一同気持ちを新たにしましたところ です。

なお、令和 3 年度は、5 年毎に発行しております「同会会員名簿」の改訂の時期に当たります。各会員の皆様方には、それぞれご案内が届くものと存じますが、ご協力くださいますようお願いいたします。

## 教育学部同窓会の近況報告

教育学部同窓会副会長 岡部 千草

教育学部同窓会は総会と代議員会を 1 年ごとに実施しています。今年度は代議員会の年度でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となりました。また、各科ごとに行っている同窓会支部の総会や活動の報告もありませんでした。なお、例年とは異なる状況下ではありましたが、今年度も役員会の同意を経て、同窓会費から教育学部に教員採用試験直前対策費 100 万円を拠出しました。今後もよりよいかたちで教育学部を支援していけるよう検討しています。



同窓会報 53 号の編集会議の様子

コロナ禍に活動の制限はありましたが、例年どおり同窓会報第 53 号を発行しました。特集のテーマは「コロナ禍における、新たな教育視点」とし、今年度だからこそその現状を踏まえて編集されました。教員や大学院生の頁も含め、会員相互の情報交換の場となるとともに、歴史に残る令和 2 年度の記録として会員に配布されています。

## 理学部同窓会の近況報告

理学部同窓会副会長 鈴木 忠和



第 9 回・理水会集合写真 (令和元年 10 月 19 日)

令和 2 年度の同窓会の活動は、全世界を襲ったコロナウイルスによる伝染症拡大の影響を受け、例年開催されていた第 1 回 (5 月)、第 2 回 (9 月) の常任幹事会と 10 月に予定していた幹事会が中止となり、さらに京水会、理水会などの支部大会も中止になりました。また、今年度は理学部同窓会設立 40 周年にあたるため 10 月に記念式典を計画していましたが中止を余儀なくされるなど、同窓会の活動に大きな影響がもたらされました。一方、同窓会の活動は幹事会による承認を得る必要があるため、55 名の幹事に対しては昨年度の活動報告と今年度の活動計画についての資料を郵送し、回答はがきによって承認を得ることができました。同窓会活動の重要な側面を支えている会報の発行について

は編集委員会が、種々の制約のある中で活動を続け無事会報 23 号の発行にこぎつけました。また、現在大学において対面授業が開始されていることもあり、第 3 回の常任幹事会を 12 月に理学部会議室で開催することができました。徐々にではありますが同窓会の活動を既定の流れに乗せていきたいと思っております。

今年度の同窓会活動にとってもう一つの大きな転機がありました。それは、これまで同窓会が個別に徴収していた新入学生に対する同窓会費を大学が同窓会と協定を結び一括して徴収をしていただくことになったことです。前号の連合会会報にも報告しました通り、理学部同窓会の会計収支は毎年右肩下がりでの厳しい状況が続いていました。特に令和元年度は新入生が 17 名にとどまり同窓会運営上危機的な状況となっていました。このような中で、大学の大きな英断を受け会費の一括徴収をしていただくことで新入生を大幅に増やす (したがって会費収入の大幅な増加) ことができ、今後の会の円滑な運営にとり大きな進展となりました。改めて大学の英断に感謝します。

種々の問題に直面しても同窓会の活動は変わることなく継続することが必要であり、また求められています。新しい年においてはコロナの問題が解決され、束縛から解放されたより活動的な一年になることを期待します。

## 多賀工業会（工学部同窓会）の近況報告

多賀工業会会長 杉田 龍二

厳しいコロナ禍の中、多賀工業会活動も大きな制約を受けましたが、学生支援や大学支援に可能な限り取り組んで参りました。工学部と一体となって推進した大学創立70周年記念事業の一環である、休憩所兼正門前バス停が令和2年度に建設されました。都市システム工学専攻の大学院生がデザインし設計に関わったものです。多賀工業会は今後とも、このような学生参加事業への協力を進めていきたいと思っております。



休憩所兼正門前バス停は写真の右側中央部

**多賀工業会(同窓会)会員と在学生の集い**

(1) 写真および絵画展、同窓会活動紹介  
多賀工業会各支部の同窓生の力作写真および絵画(プロ級からアマチュア作品まで)をオンライン展示します。

(2) 工業会会員による企業(職場)説明懇談会  
社会人先輩の工業会若手会員とのオンライン懇談会、職業・職場への理解を深めてもらうための企画です。

**多賀工業会**

こうがく祭 HP に掲載した多賀工業会案内パンフレット

オンラインで開催されたこうがく祭(工学部の学園祭)に多賀工業会も参加し、企業で活躍している会員と在学生とのオンライン懇談会、及び写真展を実施しました。アフターコロナの時代においても、学生支援の一環として、オンラインを活用したこのような取り組みを強化していきたいと考えております。

## 農学部同窓会の近況報告

農学部同窓会幹事長 黒田 久雄

令和2年度の農学部同窓会活動は、新型コロナウイルスの影響のためほぼ休眠状態となってしまいました。令和2年度の新入学生の同窓会入会率はほぼ100%近くいるため、同窓会活動を活発化しようと考えていた矢先のことでした。特に、農学部のある阿見町は茨城県知事からの要請により4月3日からの外出自粛要請と緊急事態宣言に伴い5月6日までの登校禁止となりました。他のキャンパスと比べて、県境を越えて通勤・通学する教員や学生も一定数いるために制約が負担となっています。それでも対面での実験、実習は行われ、後期からはやっと対面講義も一部再開されるようになってきました。このような状況でもOB・OGの皆様や官公庁や多くの企業様からは通常と変わらぬ就職募集で学生を支えてくれています。Withコロナの時代になっても食を支える農学部発展と支援のため皆様のご協力・ご支援をさらにお願ひしたいと思います。



令和3年1月現在の農学部正門の様子

## 大学トピックス

### 茨城大学独自の緊急学生支援を実施

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学業の継続に困難をきたしている学生の支援のために、茨城大学が4月28日に開始した「緊急学生支援パッケージ」の一つとして、緊急の給付型・貸与型奨学金(緊急学生支援寄附金)の支給が、前期(5月)に211人、後期(12月)に249人に実施されました。

本支援は、卒業生はもとより、在学生、保護者、教職員、地域企業、一般、地域住民等、多方面の方々からいただいた2,000万円以上のご寄附を原資として、支給されました。皆様の温かいご支援に感謝申し上げます。

茨城大学緊急学生支援パッケージ

### 茨城大学地球・地域環境共創機構が令和2年度気候変動アクション環境大臣表彰を受賞



茨城大学地球・地域環境共創機構(GLEC)は、令和2年4月、それまでの地球変動適応科学研究機関(ICAS)と広域水圏環境科学教育研究センター(CWES)を発展的に統合する形で新設されました。

受賞した環境省「気候変動アクション環境大臣表彰」は、気候変動の緩和、気候変動への適応に関して顕著な功績のあった個人または団体を称えるため、環境大臣が表彰を行うもので、これまでの「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」が今年度よりリニューアルされたものです。表彰の対象となるのは、①開発・製品化部門、②先進導入・積極実践部門、③普及・促進部門の3部門で、茨城大学GLECは、「普及・促進部門」での表彰となりました。

### 教育学部附属中学校高度化支援基金の募集開始

築後55年経過した茨城大学教育学部附属中学校の校舎改修工事費の一部に充当するための基金を、令和2年8月に立ち上げました。本基金により、生徒の安心安全の強化、教室など学習環境のICT化等、時代の要請に対応できる環境が整えられる予定です。

未来ある生徒たちのために、皆様からの温かいご支援をお願いいたします。

<https://www.ibaraki.ac.jp/fund/>



**第15回同窓会連合会総会、第13回同窓会連合会及び学部同窓会との意見交換会を開催**

令和2年11月25日に、茨城大学と同窓会連合会および学部同窓会との意見交換会を実施しました。各同窓会や大学からの活動報告の後、茨城大学全学教育機構の畠田敏行准教授をファシリテーターとして「茨大生が活躍するために同窓会ができること」をテーマにフリートークを行いました。新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、学生の大学生活や同窓会活動も、「新たな生活様式」の中で工夫しながら進めていくこと、また、そうした中でも、入学した学生が誰一人抜けることなく卒業していくために、学生の声に耳を傾けながら、大学と同窓会が協力して学生の教育活動や課外活動に全力でサポートしていくことが確認されました。



室内換気、アクリル板の設置等、感染対策に留意して開催しました。

**茨城大学同窓会連合会役員**

(令和2年11月26日～令和4年11月開催の総会まで)

会長	久保田益充	(理学部同窓会会長)	名誉会長	太田寛行	(茨城大学長)
副会長	土田惣一	(文理・人文学部同窓会会長)	顧問	久留主泰朗	(茨城大学理事・副学長(総括理事・教育統括))
副会長	外山 彬	(教育学部同窓会会長)	顧問	佐川 泰弘	(茨城大学理事・副学長(学術統括))
副会長	杉田 龍二	(多賀工業会会長)	顧問	山岸 仁	(茨城大学理事(総務・財務))
副会長	福地 省行	(農学部同窓会会長)	顧問	鳥羽田英夫	(茨城大学理事(社会連携))
代表幹事	小荒井 衛	(理学部同窓会常任幹事)	顧問	菊池あしな	(茨城大学理事(国際連携))
幹事	鈴木 章史	(文理・人文学部同窓会副会長兼幹事)	顧問	能島 征二	(日本芸術院会員)
幹事・会計監事	岡部 千草	(教育学部同窓会幹事)			(公益社団法人日本美術展覧会常務理事)
幹事	中井 英一	(理学部同窓会常任幹事)			(公益社団法人日本彫刻会常務理事)
幹事・会計監事	清水 淳	(多賀工業会幹事)			
幹事	黒田 久雄	(農学部同窓会幹事)			

**令和元年度事業報告** (事業期間：R01.10.1～R02.9.30)

年月日	事業項目	内容
R1/10/26	ホームカミングデー in 東京 創立70周年記念講演会	①70周年記念式典及び茨城大学近況の報告 ②記念講演(チバニアンと地質時代)
R1/10/30	第42回幹事会	①第14回茨城大学同窓会連合会総会議事について ②第14号会報の発行について ③茨城大学創立70周年記念講演会・懇親会の報告 ④2020年度入学者からの同窓会会費を入学時納付金として取り扱うことについて ⑤令和元年度同窓会連合会費の納入依頼について
R1/11/16	第14回総会	①平成30年度事業報告及び収支決算について ②令和元年度事業計画案及び予算案について ③茨城大学同窓会連合会会則の改則について ④各学部同窓会からの活動報告 ⑤大学からの報告
R1/11/16	同窓会活動の展示(茨苑祭)	①70周年記念式典及び記念講演会の写真展示 ②各学部同窓会の会報展示
R2/ 2/27	「茨城大学基金」へ寄附	茨城大学基金への寄附 5万円
R2/ 3/13	会報「第14号」発行	発行部数:5,000部 卒業生・修了生への配付 職域同窓会等への郵送

**令和元年度収支決算** (会計期間：R01.10.1～R02.9.30)

事項	収入		備考	支出	
	当初予算	収入額		当初予算	支出額
1 繰越金	630,830	630,830		1 管理費	160,000
2 会費	250,000	250,000	同窓会連合会会費 (5学部同窓会×5万円)	(1) 通信費	30,000
3 事業費	0	510,000	2019 ホームカミングデー in 東京の懇親会費	(2) 印刷費	120,000
4 預金利息	10	6	2月分・8月分	(3) 事務費	10,000
合計	880,840	1,390,836		2 事業費	140,000
				(1) 会議費	10,000
				(2) 交際費	30,000
				(3) 寄附金	50,000
				(4) 共催金	50,000
				(4) 予備費	580,840
				合計	880,840
				次年度繰越額	713,256 (令和2年度へ繰越)

**令和2年度事業計画** (事業期間：R02.10.1～R03.9.30)

年月日	事業項目	内容
R02/10/30	第43回幹事会	①第15回茨城大学同窓会連合会総会議事について ②第14号会報の発行について
R02/11/25	第15回総会	①令和元年度事業報告及び収支決算について ②令和2年度事業計画案及び予算案について
R02/11/25	第13回茨城大学と同窓会連合会及び学部同窓会との意見交換会	①特別セミナー「大学と同窓会組織との関係性について」 ②茨城大学からの報告 ③同窓会連合会からの意見等
中止	茨苑祭 ホームカミングデー	11月14日(土)、15日(日)に開催予定の第71回茨城大学学園祭「茨苑祭」が、新型コロナウイルスの感染拡大状況の影響で中止となったため。
R02/11/25以降	「茨城大学基金」へ寄附	100万円+5万円を寄附
R03/ 3/	会報「第15号」発行	発行部数:5,000部(案) 卒業生・修了生への配付を予定
R03/ 5/	第44回幹事会	【主な議題】水戸キャンパス茨苑祭(11月)でのホームカミングデー実施について
R03/ 8/	第45回幹事会	【主な議題】茨城大学と同窓会連合会及び学部同窓会との意見交換会について
R03/ 9/	第14回 茨城大学と同窓会連合会及び学部同窓会との意見交換会	

**令和2年度予算** (会計期間：R02.10.1～R03.9.30)

事項	収入		備考	支出	
	決算額	収入額		決算額	支出額
1 繰越金	713,256			1 管理費	140,000
2 会費	250,000		同窓会連合会会費 (5学部同窓会×5万円)	(1) 通信費	10,000
3 事業費	0		総会後の懇親会をホームカミングデーに組み込んでいるため、会費等の収入は無し	(2) 印刷費	120,000
4 預金利息	6		2月分・8月分	(3) 事務費	10,000
5 寄附金	1,000,000		同窓会連合会から茨城大学基金への寄附	2 事業費	1,140,000
合計	1,963,262			(1) 会議費	10,000
				(2) 交際費	30,000
				(3) 寄附金	1,050,000
				(4) 共催金	50,000
				3 予備費	683,262
				合計	1,963,262

**編集後記**

早いもので、令和3年となりました。昨年から続くコロナ禍では、ホームカミングデーの中止等、同窓会連合会の活動も影響を受ける形となりましたが、とりわけ、学生の大学生活には多大な影響が及びました。このような時こそ、多種多様な同窓生を擁する同窓会連合会が、大学・学生に果たす役割も重要になるかと思えます。今後も大学並びに同窓会連合会の活動にご協力をお願いいたします。M.K

茨城大学同窓会連合会事務局  
(国立大学法人茨城大学総務部基金・同窓会課内)  
〒310-8512 水戸市文京2-1-1  
電話：029-228-8781 FAX：029-228-8249

茨城大学HP  
<http://www.ibaraki.ac.jp/>  
茨城大学同窓会連合会HP  
<https://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/alumnus/union/>